

# 第 8 回 市民動物園会議

会 議 録

## 第8回 市民動物園会議

- 1 日 時 平成21年12月11日(金) 14:00から16:00
- 2 場 所 円山動物園内 動物園プラザ
- 3 出席者 委 員：原田 昭、服部 信吾、いがらし ゆみこ、金澤 信治  
佐藤 樹、田中 喜久香、林 健嗣、堀田 真理  
山崎 あずさ  
事務局：環境局理事、飼育展示課長、経営管理課長 ほか
- 4 議 事
  - 新メンバーを含むメンバー自己紹介と抱負
  - (1) 経営状況報告
    - ・ 入園者数の状況(8~11月)
    - ・ 新着動物・出産の状況、アニマルファミリーの状況
    - ・ 冬のイベント予定について
  - (2) ゾウ導入検討のプロセスについて
  - (3) その他  
次回議題と日程調整等

## 1. 開 会

**○原田委員長** それでは、今日、出席予定の委員が動物園の中にいらっしゃるようですけれども、往々にして、ちょっと動物を見ようとして見出すと時間を過ごしてしまうということを私も経験しています。

時間が過ぎましたので、第8回市民動物園会議を開催させていただきたいと思います。

## 2. あいさつ

**○原田委員長** まず最初に、理事からごあいさつをいただきます。

**○新目環境局理事** 今日は、皆さん、どうもありがとうございます。

環境局理事をしております新目と申します。初めての方もいらっしゃいますけれども、動物園を環境局で担当している関係がありまして、私はこの席におります。

まず初めに、第8回目となります市民動物園会議の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げたいと思います。

本日は、委員の皆様には、師走に入りまして何かとご多忙のところ、貴重なお時間を割いてこの会議にご参加いただきまして、まことにありがとうございます。

まず初めに、今回より一部の委員のメンバーが交代となりました。新たに就任されます委員の皆様、今後2年間、どうぞよろしく願いをいたします。

また、従前から継続就任いただく委員の皆様、引き続き、どうぞよろしく願いいたします。

年末でありますので、この1年を簡単に振り返りますと、今年は何といても、ホッキョクグマの双子の人気と、これに続くユキヒョウの双子の誕生という中での1年間であったような気がします。この要因で入園者の年度の目標80万人を早々と11月で達成することができました。しかし、忘れてならないのは、リスタート委員会、そして市民動物園会議での貴重なご提言を受けた円山動物園の、市民の動物園としての数々の地道な取り組み、挑戦が土台にあってこそ、お客様の足を円山に運ばせることができたと認識いたしております。このような円山の姿を評価いただき、おかげさまで11月にはCRMベストプラクティス賞を受賞いたしました。これからも基本計画の達成に向けて円山の挑戦は続いてまいります。

また、飼育動物の新しい生命の誕生とともに、一方で悲しいこともございました。京都に貸し出していましたゴリラのゴンやシマウマのシンゴの死亡、そしてトカラヤギの死亡と家畜伝染病のヨーネ病発見に伴うこども動物園の一時閉鎖などがございました。

うれしい話題としては、待望のオランウータン、マンドリル、キリンのいずれも雌の来園がございまして、将来に向けて繁殖が期待されております。

こんな1年だったように思います。詳しくは後ほど課長の方からご報告があると思いますが、いずれにいたしましても、委員の皆様のお応援と多くの市民のお客様に支えられながら、円山らしさの追求のため計画の実現に進んでまいりました。

しかしながら、まだまだ目指す道のりは遠くにあります。そのようなことから、この会議の持つ意義、議論は重要でありますので、委員の皆様には、繰り返しになりますが、どうぞよろしく願いいたします。

なお、酒井園長は、昨日までは元気でしたがけれども、今朝からインフルエンザらしく、体調を崩して急遽、休暇ということになりましたので、会議の欠席をお許し願いたく存じます。

簡単でございますけれども、開会のあいさつをさせていただきます。よろしく願いいたします。

**○原田委員長** ありがとうございます。

それでは、本日が第2期目の市民動物園会議の第1回目になりまして、市民動物園会議のメンバーが約半数ほど入れかわりになりました。今日は新メンバーの委員にいらしていただいておりますので、まず、メンバーの自己紹介から始めたいと思います。

まず、私は、札幌市立大学の原田と申します。どうぞよろしく願いいたします。

私は、札幌に来て大学をやれということで、同時に、市長から動物園をちょっと見てくれということで、これは楽しい仕事でいいなと思ひまして、結構でございますよなんて割と明るい声で引き受けてしまったのですけれども、その後、リスタートという、再生委員会という名前であることを後で知らされまして、再生とは一体何なんだという感じでした。後ほど数値が出てくるでしょうけれども、当時は49万人ぐらいと入園者数がかなり落ち込んできたので、それを何とか回復せよというようなことでございまして、そればかりではなく、経営状態をもう少し安定的にせねばならないということもございまして、リスタート委員会で構想を立案するところから始めさせていただきました。

昨今、新聞等を見ておりますと、たくさんの人たちが、アニマルファミリーという制度を作っておりますので、そのファミリーもかなり多くの方々が来られるようになって、入園者も倍増に近くなってきているということです。私は、何といたっても円山動物園の飼育員の方々の意識がかなり変わってきているなということを実感しております。

動物園を支えるという点では、まずは動物園を市民の手に返して、それを市民のファミリーにして、市民の動物を動物園が預かりして、それを市民の家族が見にくる、あるいは会いにくるといった関係ができれば、必ずここはにぎやかな動物園になるだろうと予測しておりましたけれども、そういう方向に向かっております。これは、飼育員の方々、それから動物園のトップ層が一丸となってお努力された結果であろうというふうに本当に思っています。これは素晴らしいことだなというふうに外から見えておりますけれども、これからは市民の一員として円山動物園を応援していきたいと思ひます。

それから、市民動物園会議につきましても、動物園を応援する会議として、いろいろ積極的な意見もお叱りもいただきながら動物園をサポートしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご協力をいただきたいと思ひます。

以上でございますが、副委員長であります服部委員から順に願ひします。

**○服部副委員長** ご指名でございますので、私の方から自己紹介をさせていただきたいと思っております。

私も、原田委員長と同じように、企業の立場から動物園経営の面も含めてリスタートをさせていきたいということでの意向に基づいた委員として仕事してほしいということで、当初からかかわった一人でございます。

今、原田委員長の方からもお話がありましたように、当初は49万人という40万人台で、ややもすると観客と称するお客様がどんどん激減していった時代でありまして、何とかそれをアップさせなければいけない。アップさせるためにはどんな努力が必要なのだろうかということから始まりまして、リスタート委員会としては、基本構想をまとめて一つの理念を作り、そして、三つの柱となる行動指針を築いた上でリスタートを行ったわけでございます。それがまさに、順風満帆ということではないですけれども、努力の結果、目標数値どおりに現在のところ推移しています。このままですと、もしかしたら今年度中に100万人という一つの目標の達成が可能になるのではなかろうかという状況下にあるということです。これは、当然のごとく、舞台上言えば、役者がおり、観客がおり、それを支える人たちがいらっしゃるわけですが、これがものの見事に花を咲かせてきているのではなかろうかと思っております、その下支えとなっただいている動物園の職員の皆様方には、そういう意味では非常に貢献が高く、その貢献の中で意識が非常に高まってきているということではなかろうかと思っております、敬意を表しているところでございます。

これからまた新たな市民会議としてさらに次の目標に向かって進んでいくわけでございますので、微力ながら私も協力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**○佐藤委員** 今回から参加させていただきます北海学園大学法学部4年の佐藤と申します。

学生であるという点で、皆様と一緒に議論させていただくのは、大変心苦しい点、あるいは言葉足らずな点があると思うのですが、若者の意見として発言させていただきたいと思っております。私自身、円山動物園がより皆様に愛されるような動物園になってほしいと感じておりますし、そういった点にぜひ貢献したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**○金澤委員** 今回、新規で参加することになりました金澤でございます。よろしくお願い申し上げます。

今、動物園のことは原田委員長とか服部副委員長よりも知らないというのが本音で、現場のことしか知りません。全体を見ていくという点では、これからいろいろ皆さんに教えていただきながら、かつ新たな視点で、ちょうど平成23年に動物園60周年を迎え、ちょうど任期が切れるときになろうかと思っております。とにかく動物園の60周年を一緒に迎えることができるのかなと思っております。あと約2年間ありますけれども、ひとつよろしくお願ひしたいと思っております。

**○いがらし委員** 継続で委員を仰せつかりました余り役に立たない漫画家のいがらしです。

遅刻してごめんなさい。お嫁に来たナナコちゃんを見てきたのです。すごくかわいくて、ナナコちゃんのドキュメンタリーを見ました。子どもたちみんなに見送られてここの動物園に嫁いできた映像がとても感動的で、今、さぞや仲よくしているかなと思って見てきたら、そうでもないですね。ちゃんとさく越しでした。そんな感じで、ここにいる動物たちの物語を私なりに発信していけたらなと思っています。よろしくをお願いします。

**○北川経営係長** 円山動物園の事務局をしております北川でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

**○新目環境局理事** 先ほどごあいさつしましたけれども、環境局理事の新目でございます。

先ほども申しましたように、今、動物園が環境局の所管となっております関係で出席させていただきますいております。私も、これで動物園を管轄して2年になります。

円山動物園にこの仕事で来る前までは、娘の動物園についてきた以来ですから、札幌市民であっても、私は自分とすれば平均的で、そういう親が多いだらうなと思っていますが、もう20年以上は来ていませんでした。しかし、この仕事についてからは、動物園というのは変則の職場でございます、水曜日に役所者会議が催されます。朝からなのですけれども、私はそれに合わせて、毎週、特別なことがなければ、皆さんが見られる前のひとり占めをしながら動物園を約30分間から1時間かけて回って会議に出るとというのが日課で、非常に楽しい思いをさせていただいております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

**○嶋内経営管理課長** 円山動物園経営管理課長の嶋内と申します。よろしくお願ひいたします。

**○上野飼育展示課長** 同じく円山動物園飼育展示課長の上野と言います。どうぞよろしくお願ひいたします。

**○山崎委員** 今回から加えていただきました山崎あずさと申します。よろしくお願ひいたします。

主婦ということになってはいますが、私は、札幌に主人の転勤で来まして、今、2年目の冬になります。今年、シロクマの双子が誕生しまして、それまでほとんど動物園に興味も感心も余りなかったのですけれども、ララの出産に何か突き動かされて、初めて足を運んだのが今年の3月です。今、突き動かされるままに円山動物園にとっても興味を持ってしまいまして、パスポートを買い、通い続けています。今、主婦という自由な立場もありまして、1週間に3度、4度と来たときもありました。ちょっと寒がりなので、この時期は足が遠のいてしまっているのが正直なところです。

こんなふうには私のような者が突き動かされて、今、なぜかこういう場にいるということで、こういう機会を大事にしたいと思ひますし、私がこの中では、一般の入園者の立場と申ひますか、今でも本当週に1度ぐらひは来ておりますので、そういった立場を生かして、お役に立てることができるよう頑張っていきたくと思ひます。よろしくお願ひいたします。

**○堀田委員** 私も遅刻しまして、申しわけありません。

もうちょっと早く着く予定が、どの会場なのか転々と回ってしまい、どなたに聞いてもよくわからないということで迷っておりました。

私は、札幌青年会議所から出向ということで円山の会議に今年から2年参加させていただきます。

ふだん、仕事を持ちながら、青年会議所のまちづくりの中で検討するのは違う内容を、動物園という楽しい枠の中で学べることをとても楽しみにしております。自分自身の知識の面も増やしていけたらと思いますので、一緒に学ばせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

**○林委員** 放送人の会の林と申します。札幌テレビに所属しております。

放送人の会というのは、全国の放送の制作者の会合でして、それに北海道から幹事として参加しているのですけれども、こういう活動をしている放送人の会のメンバーは私一人だと思います。

というのは、放送というものの持っている力は、これから新聞とか雑誌もなかなか大変な時代の中で、ますます大事な役割を果たしていかなければならない、それも、特に地域のために大事な役割を果たしていかなければならないというのが私の考えでして、ともすると、企業としての放送が最近が目立ち始めていますけれども、そうではないということを考えております。

どちらかという、1期目は服部副委員長とともに企業目から厳しい発言をさせていただきました。とにかく、私は、メディアとしての円山動物園というとらえ方で、どんどん発信していくことによって動員数をふやすということ、個人的にも知恵を絞り、あるいはアドバイスをさせていただくという役割かなと思って参加させていただいております。2期目もやれと言われまして、非常に光栄に思っています。

まだまだ完成ではなくて、やはり札幌型、いわゆる円山動物園型という発信の仕方があると思います。私はどうしても仮想敵国をつくらないとだめな悪いタイプの間人のございまして、旭山動物園に負けるな、旭山動物園の事業のかけ方、人のかけ方、施設のかけ方、それから比べると、札幌の新しい形での動物園の作り方が、すばらしいスタッフによってでき上がれば、そのために何かお手伝いできればというのが私の参加している理由です。

今日から2年、どういう形になるか、とにかく100万人になるまで委員をやめてもうるさく言いつつ、最後は私が何回も出たり入ったりすれば100万人になるというパターンもあります。山崎さんも1週間に3回と言わず5回も6回も来ていただければ人数がカウントされていきますので。

また、頑張って100万人にすると、人というのは、入場者100万人という声を聞いたなら私も行かなきゃならんというふうに思う不思議な性格がありますから、とにかく、みんなで頑張っていきたいという思いです。以上です。

**○田中委員** 今回から参加させていただきます田中喜久香と申します。よろしくお願いいたします。

円山動物園は、うちの近所です。昔からいい散歩コースでしたので、よく通わせていただきました。とても自然に近くて居心地のいい動物園だと思います。何かお手伝いできることがありましたら、ぜひやらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

**○原田委員長** ありがとうございます。皆さん、これから2年間、どうぞよろしくお願いいたします。

### 3. 議 事

**○原田委員長** それでは、今日の議事の1番目でございますが、経営状況報告ということで、これは事務局の方からご説明をいただきます。

**○上野飼育展示課長** 本来でありましたら園長が資料についてご説明しているところですが、本日は欠席しておりますので、資料の説明は経営係長の北川の方からご説明させていただきます。

**○北川経営係長** では、お手元の資料に基づきまして説明をさせていただきます。

まず、資料の2-1、A4判縦の数字とグラフの入っている資料で経営状況の説明をさせていただきます。

先ほど来、入園者数が増えたというお話をしていただきましたけれども、入園者数で言いますと、今年度11月末の時点をもちまして82万人を突破している状況です。改革前の平成17年度が49万人、史上最悪と言ってもいい入園者数だったのですが、そこから4年目で80万人を突破し、今年度は昨年同様12月から3月までの入園者数があったと仮定すれば90万人に手が届くという状況を迎えることができました。

入園者数の中でも、傾向としては、年間パスポートの売れ行きが非常に伸びておりまして、そういった意味ではリピーターが増えていると思います。もう一つは、中学生以下は無料となっていますけれども、子どもさんだけではなくて高校生以上の有料入園者数の伸び率が非常に高くなっております。その結果、もう一つのグラフであります月別の入園料の収入につきましても、11月末をもって既に2億4,500万円というところまで来ております。これにつきましても、平成17年度の1億3,400万円から比べますと、今年度中にはおよそ倍の入園料収入に達するのではないかと考えているところでございます。

入園者数、入園料につきましては以上でございます。

資料2-2でございます。

新着動物と動物の出産の状況ということで、前回の会議以降の情報を集めております。

9月15日に滝川どうぶつらんどからオシドリ、雄1、雌2の3羽が来園しております。また、10月1日にはハイイロカンガルーのマイケルとエイミーの子どもが初認、初め

て袋から顔を出したのが確認されております。

それから、10月初旬になりますけれども、スローロリスというカンガルー館にいる夜行性動物、小さいお猿さんの仲間なのですが、スローロリスのエイコが誕生しております。

また、先ほどいがらし先生からもお話がありましたけれども、10月15日には熊本市の動植物園からマサイキリンの雌のナナコが来園しております。マサイキリンに関しましては、タカヨという国内で最高齢の雌のキリンがおりまして、だんなさんのユウマと非常に仲のいいカップルだったのですけれども、タカヨが亡くなりまして、ユウマが1人で非常に寂しい思いをしていたのですが、実はセブンイレブンさんのご協力もありまして、ナナコという名前のお嫁さんを迎えることができます。

**〇いがらし委員** だから、セブンイレブンのナナコなのですね。

**〇北川経営係長** そうなのです。電子マネーのn a n a c oのナナコという名前をいただいております。

そういう楽しい話題だけではなくて、主な死亡動物ということで、11月1日にはニシゴリラのゴン、こちらは京都市の方に繁殖のために貸し出しておりましたが、京都の空の下で亡くなってしまいました。市民に大変長く愛されたゴリラでございましたけれども、京都でも、こちら円山でも追悼のイベントをさせていただいたところです。また、11月15日にはグラントシマウマのシンゴも亡くなっております。

それから、ヨーネ病の家畜伝染病について、飼育展示課長の方から報告いたします。

**〇上野飼育展示課長** 動物に関する情報のところで私から追加でお知らせします。

冒頭に理事の方からもお話がありましたとおり、こども動物園で11月9日、ふれあいに使用していましたがヤギが1頭死亡しています。それを検査しました結果、11月18日に法定家畜伝染病のヨーネ病という診断が出まして、今現在、こども動物園の中を閉鎖し、観覧を中止しています。今現在、こども動物園の中は全部消毒をしております。それから、一緒に同居していた13頭のヤギ、羊については、今現在、検査結果はすべて陰性というふうに出ております。人に感染する病気ではありません。全部陰性という結果が出ておりますけれども、万全を期するという意味で、今、全面閉鎖しております。もう少し期間をおいて、ヤギ、羊以外の部分は展示を再開しようと考えています。一応、12月下旬に再開したいと考えておりますが、ヤギ、羊については引き続き大事をとりまして、ふれあいはしないで、展示というか離れて見ていただくことは考えておりますけれども、引き続き検査を継続しながら推移を見ていくという考え方でおります。

以上、ご報告させていただきました。

**〇北川経営係長** 資料に戻りまして、資料2-2の下の方ですけれども、アニマルファミリーの状況です。アニマルファミリーにつきましては、市民の方々に動物のえさ代をご負担いただきまして、その会費といたしまして、1年間、動物の家族として応援をしていただくという制度になってございます。

現在、7種類の動物を対象に既に行っておりまして、新たに10月からはマサイキリン

ナナコファミリーの募集を開始したところでございます。こちらにつきましては、1月からのサービスインとなっております。

アニマルファミリー全体の状況ですけれども、11月末時点での現在の加入状況、会員の件数で597件、うち大人が416件、子ども会員が100件、法人・団体等が81件となっております。

また、1人で何口も入っていらっしゃる方もいらっしゃいます。合計口数で言いますと789口となっております。

また、それぞれの大人会員、子ども会員、法人会員で1口当たりの金額が変わりますけれども、合計での寄附金額につきましては、467万1,000円という形になっております。これらの寄附金額につきましては、すべて対象動物のえさ代に使わせていただくという形の整理をしております。

アニマルファミリーにつきましては、この動物園会議、また前段のリスタート委員会でも非常に活発に議論をさせていただきまして、制度をつくり、取り組んできたものでございます。他都市の事例などもいろいろ研究してスタートしましたけれども、代表的なところで言いますと、上野動物園ともひけをとらない会員数あるいは寄附金額に成長してきているところでございます。これからもナナコファミリーを加えて、また可能な限り対象動物を拡大してまいりたいと考えております。

動物に関する報告は以上でございます。

3点目は、これからの冬のイベントにつきまして、予告的な意味合いも含めて情報提供をさせていただきます。A3判横の資料2-3をごらんいただきます。

冬のイベント予定ということで、まだ固まっていないものもありますので、若干変更の場合がありますけれども、一たん、今こういう形で企画をしているものをご説明させていただきます。

ここにナンバー1から28まで28ものイベントが書かれておりますが、経緯で言いますと、毎年、円山動物園の中で職員の有志、飼育員も経営係あるいは管理係といった事務方の職員も入りまして冬の動物園プロデュースのプロジェクトチームを作って、こういった新しいイベントの検討会議をしております。そういった中で冬の動物園の取り組みというのは過去3年一生懸命続けてきたのですが、同じ職員でやっていると、だんだんとマンネリ化が進んでいくものですから、今年、また新たにメンバーを一新しまして、これまでにない新しい取り組みをしようではないかということで、ここに28種類のイベントが出揃っております。全てを細かくはご説明いたしませんけれども、特徴的なところをご説明差し上げます。

この中で言いますと、ナンバー1から5までに関しましては既に園内で展開しているところです。冬の動物園ということでイメージパネルを園内各所に掲示しているほか、ちょうど来年は干支が寅年ということで、園内で掲示をしておりますトラを中心に干支展、トラの画像のダウンロードのサービスなども提供しております。

また、先日、12月5日にホッキョクグマのツインズの誕生会が行われております。また、そこから13日までの期間をツインズウィークという形で園内のレストハウスでパネルの展示、貴重映像のご紹介をさせていただいております。

それから、この報告でぜひ胸を張ってアピールしたいのですが、冬の動物園は閉園していると思っていたと言う方が結構多いので、冬もあいていることをアピールしなければいけないと考えました。ただ、冬に動物園に来ていただくにはどうしても寒さ対策が必要になります。先ほど山崎委員からもありましたけれども、寒がりの方はどうしても野外施設は敬遠されるので、何か暖かい取り組みをしようではないかと職員みんなで考えまして、7番と8番ですが、一つはイコキロルームです。これは、イコロとキロルというホッキョクグマの双子の名前からとっておりますが、ちょうどホッキョクグマの前は野外の放飼場なものですから、今でも1時間、2時間と長時間そこでホッキョクグマを見てくださるお客様がいるのですけれども、どうしても手がかじかんで足も冷たくなってという声があります。そこで、ホッキョクグマの展示場の向かい側に、今、ちょうど芝生のスペースになりますけれども、スーパーハウスを2棟設置しましてそこで暖をとっていただく、あるいは、そこから窓越しに暖かいお部屋の中からクマを見ていただくということをやるのではないかと考えました。これは、大和ハウス様がこのスーパーハウスのご提供をしてくださるということで、企業の協力を得ながらイコキロルームに新たに組みようと考えております。

設置の時期については、設置工事の関係もあって、12月下旬あるいは1月の半ばには設置できるのではないかと考えております。

そして、8番なのですけれども、円山動物園の中で足湯をやってみようではないかということですが。これも寒さ対策でございまして、かじかんだ足をまた温めていただいて、もう一回、また外でゆっくり動物を見ていただくということで、エゾシカ・オオカミ舎の1階に、ちょうど窓越しにオオカミを見られるスペースがございまして、そちらに足湯を設置して、足湯につかりながらオオカミをごらんいただける。人呼んで「オオカミの湯」という名前をつけまして円山動物園の足湯をスタートしまして、ちょうどホッキョクグマからも近い場所にございまして、寒さ対策でご利用いただければと思っております。こちらは、元旦からオープンという形で準備を進めております。

エゾシカ・オオカミ舎ということでエゾシカ側に置く案もあったのですが、そうすると、既存の温泉の名前に近くなってしまいうということもございまして、オオカミの湯の方でいかしていただきたいと思っております。

それから、冬の集客という意味で言いますと、毎年、干支展をやりまして、ちょうど元旦にはお隣の北海道神宮の方にたくさんの初もうで客がいらっしゃるということで、その初もうで客の方にいかに円山動物園に立ち寄っていただくかということが課題になっております。

そこで、13番になりますが、今年は地下鉄円山公園駅において限定商品ということで

お年玉年間パスポートを販売する予定です。地下鉄の協力も得まして、コンコースで干支のトラの絵をあしらった年間パスポートを、通常は1,000円で販売しておりますけれども、こちらに1,200円以上分のクーポンをお付けした、クーポンだけで元がとれるという大変お得な年間パスポート、通称「お年玉年パス」を販売する予定でございます。こういった年間パスポートの販売を通じまして、動物園にちょっと寄ってみようかなと思っただけだと考えております。

それから、1枚めくっていただきますと、もうごらんになった方もいらっしゃると思いますが、広報さっぽろの12月号でございます。こちらで「冬のおでかけガイド」という記事を出させていただきまして、「冬こそ楽しい動物園」ということで、冬の動物園にいらしてください、また、お正月にはトラもうで、初もうでの帰りに寄ってくださいねという告知をしております。

注目していただきたいのは、左肩なのですけれども、昨年までは3年連続で円山動物園の大人無料クーポンをお付けしておりました。今年は、年間パスポートで来園される方が大変ふえておりますので、無料クーポンではなくて、冬に来やすいようにということで試験的に駐車場の無料クーポンをお付けしております。これでお客様の動きがどういうふうに変ってくるのかということ今年検証してみたいと思っております。こちらで12月と1月の2カ月間、無料の駐車が可能となっております。

広報さっぽろについては以上でございます。

また資料に戻りたいと思います。

17番以降になりますけれども、こちら今年で4年目になります。冬の期間のサンデーセミナーということで、1月から毎週日曜日に、さまざまな動物講座や体験教室をやってございます。今回、何回かに分けて、全部で8回とプラスワンという形でサンデーセミナーを開催いたします。

中でちょっと変わったところで言いますと、20番ですけれども、レッサーパンダのうんちを使った紙づくりをしまして、その紙で合格祈願のお守りを作ることです。これは、レッサーパンダは木から落ちない動物でございまして、落ちないという意味合いと、運がつくということで、合格祈願のお守りを作りまして、受験シーズンになりますので配布をしたいと考えております。

それから、札幌自体がたくさんのお客をお迎えする雪まつりのシーズンも、円山動物園におきましてはスノーフェスティバルということで、こちら4回目になります。円山動物園なりの雪まつりを開催いたします。こちらは22番に書かせていただいております。園内に氷の滑り台を3基、手づくりで設置しまして、またチューブスライダーも置かしまして、小さいお子様が本当に1日じゅう滑って遊ぶような施設を作らせていただいております。

ということで、この冬もたくさんのお客に来ていただける、また、冬の取り組みがこんなにいっぱいあるのだということでたくさん新聞やマスコミの報道で取り上げていただ

けるように、この冬の短期間の中にたくさんのイベントをぎっちり詰め込んだという形になっております。

一昔前であれば冬は閑散期という状況だったのですけれども、職員が本当に休む暇がないぐらいイベントをたくさんやって、皆様を心からお迎えしていきたいと考えております。

先ほど、入園者数はもしかしたらという話がありましたけれども、この冬も気を抜かずにイベントをやって、たくさんの方に来ていただいて、90万人もしくはそれ以上という結果を残せればと思っております。

以上、3点、経営状況の報告をさせていただきました。

**○原田委員長** ありがとうございます。

ただいまいろいろと状況報告をいただきましたけれども、最初に入園者数と入園料収入という話でしたが、委員の皆様から、これに対してサジェスションなりご意見をいただきたいと思っております。

まず、21年度3月まで円山動物園の園長をされてきて、実質的にこの数値の流れを観測してこられた、金澤元園長、いかがでしょうか。

**○金澤委員** この数字を見ていて、線がまるっきり別なラインになっていますが、その大多数はイコロ、キロールとユッコ、ヤマトなのかなと思っております。そうすると、問題は、今年はいいけれども、来年22年度が苦しくなる可能性を非常に持っています。今年、結果として90万人に近い数字になって、このままいくとぎりぎり90万人になるだろうと思っておりますけれども、予想よりもはるかに高い数字できていて、すごくいいなと正直思っています。

大体1人当たりの収入単価でも変わっていませんが、今ざっと計算してみると1人2700円の数字がほとんど変わっていませんので、このまま伸びていくと、どんどん収入が伸びて、もともとの経常経費を30%カットする、収入と支出のバランスを保ちましょうということで、だんだん届きやすい数字が確保できていいなと実は思っています。

**○原田委員長** ありがとうございます。

ほかにございませんか。服部委員、いかがでしょうか。

**○服部副委員長** 今、金澤委員の方からもお話がありましたように、多分、このままの状況でいけば90万人はかたいです。21年度当初の目標が90万人でございますので、その辺はクリアできる可能性が十分満ち満ちてきています。ましてや、北川係長からお話があったように、後半の冬のイベントによって、まさしく動物園の冬は友達だ、動物園の雪は恋人だといわんばかりのイベントが作られています。中身を見ていくと、ワクワクしてくるようなイベントなものですから、そういった意味では、動物園側も一つ一つのイベントに対する集客可能性の集客数を把握しているのだらうと思うのですけれども、そういったところも照らし合わせれば90万人は超えて100万人という数字も見えてくるのではないかと思います。

その辺は、ある意味で言えば、このイベントに対する集客目標設定はどれぐらい見てお

られるのかということをお聞きしたいという思いがあります。

もう一つは、質問にもなってしまうのかもしれませんが、19番のスノーシューを履いて遊びましょうという大変おもしろい試みを、多分、今年初めての試みで取り組まれたのだらうと思いますが、これは夏場の森林の散歩コースと同じように、時間を設定して、あるいは人数を制限してやられるのではなかろうかと思うのですが、この辺のアピールをしっかりとしていけば、おもしろい目玉になると思います。いわゆるスノーシューを履きながら野生動物を見ていき、そして、動物園の雪を恋人として描けられるというような位置づけをされるのではないかと考えております。

そういう意味で、今年度の目標として、今現在82万が3月末決算時で何ぼになるのと予測を立てているのか、あるいは入園料の収入がうまくいけば、数字を掛ければいいわけですから、先ほど話があったように1人当たりの単価を掛ければ出てくるわけでしょうけれども、どのように設定しているのか、この辺を後ほどお聞きしたいと考えています。

いずれにしても、大変すばらしい動きを示しているということでは、目標に準じた設定の中での動きが達成されると大変いいと思います。

**○原田委員長** ありがとうございます。

今ご質問がありました内容にお答えいただけますか。

**○北川経営係長** 一応、冬のプロジェクトに関しましては、プロジェクトメンバーの方で数値目標を設定しておりまして、月別に例えば12月は1万人を目標にしようとか、いろいろな目標があるのですが、冬の期間で前年プラス30%というあたりを設定しております。そういう形で言いますと、前年と同じだけ4カ月間入りましても90万人ちょうどぐらいになるのですが、さらにもう数万人の上積みができるのではないかと考えております。

今年度の目標の80万人は超えておりますので、来年困るのではないかという話もありましたけれども、余り伸ばし過ぎてもという意見もあったのですが、経営状況で言いますと、まだ黒字化をしているわけではございませんので、少しでも赤字を減らしていくというのが我々の経営課題だと考えておりまして、収入換算で言いますと、当初の平成23年度のゴール地点、平成17年度決算額の倍増というところは恐らく達成できるのではないかと見込んでいるところでございます。

それから、19番のスノーシューのイベントでございますけれども、こちらにつきましては、動物園の森、ビオトープですね、今年度4月にオープンいたしまして夏の間も非常にたくさんの方に円山の豊かな自然を楽しんでいただきました。冬は、基本的には雪に埋まっていまして閉鎖されているのですが、そこをスノーシューを履いて入っていただこうと。そうすると、動物の足跡とか、冬に雪の重みで木がどんなふうになっているという冬の自然のあり方が見える場所ですので、ぜひ、そういうところを見せたいということで、うちの植物担当が企画いたしまして、スノーシューを履いて遊ぶということが実現しそうだということでございます。

**○服部副委員長** いずれにしても、いい動物園を作っていくためにはいい経営状態が必要でございますので、引き続き努力をお願いしたいということでございます。

**○原田委員長** ありがとうございます。

それでは、28のすばらしい冬のイベントが並んでおりますけれども、これについて何かご意見等はございますか。

**○林委員** 継続している人たちがばかりしゃべっているので、初めて来た人に話しやすいような場を私が作らなければいけないと思うので、ばかな話をします。

今、前園長が心配されたように、そういう心配をしながら過ごして来られたご苦勞に感謝申し上げます。ただ、そのみだけでなくて、恐らく、北海学園大学の佐藤さんとか主婦の方がいらっしゃって、当然、ホッキョクグマが大きくなってユキヒョウも大きくなって、当然愛らしくなくなって、それでもなおかつ来る魅力、田中さんのようにそばにいらっしゃって見る魅力というものがあってきっとご参加されているので、僕は、そういう意味では、また新たな、金澤元園長の心配をむしろ徒勞に終わらせるようにするためにも、その次にある期待感みたいなものがこの冬のイベントの中で醸成させていくというふうに意識するということですね。僕らは、メディアをやっていると、どうしても、このイベントで楽しんでもらおうというのが一番大事なことなのですけれども、ただ、イベントに来た人が、バイラル効果、我々は口コミ効果と言っていますけれども、おもしろかったよ、楽しかったよというときに、それは、ホッキョクグマがいたから、ユキヒョウがいたから、何々がいたから楽しかったのではなくて、円山動物園って意外に楽しいよと。今年1年間伸びた中で、私が聞く中で言うと、円山動物園に久しぶりに行ったのだけれども、意外におもしろいと。

それからもう一つは、この不況の中で安・近・短、安くて近くて時間がかからない、そういうときに円山動物園がもう一度見直された。それに対してどうこたえるかという意味での冬のサービスであるというふうにきちっととらえられて、職員は大変だと思いますけれども、常にメッセージを発しているのだという意識ですね。そういうものが、ただイベントだけでやっているから、シンプルに言えば楽しんでいただくということがベストなのですけれども、そうは言うものの楽しむだけではなくて、ここにはいろいろなメッセージを持っていますので、あれもいるよ、これもいるよということをみんなでお知らせする。ただイベントに来るだけではなくて、お知らせするような迎え方をすれば、このイベントの数というのは相当の効果を生むのだらうと思います。そのことが来年度につながる。

最後に言いますと、国も市も会社も12月はもう既に来年の予定を立てています。つまり、これからの夏のこういうイベントも、もう既に来年のことが準備されていますね、そこに寄せていくための準備期間であると考えたらどうなのだろうかと思うのです。うちの会社もそんなふうに考えなければだめだと言っているのですけれども、年度納めで終わるから、期余りした予算をどうするのか。その期余りの予算なんかもう事業仕分けでなくなってきてしまっていますので、そういうことを考えたときに、この28というイベントは、

委員長がおっしゃったように、非常に豊富なものだけに、プラスアルファするか、もしいい意見があったら参考にして、逆にその意見を生かされたらどうかと思います。

きっとホッキョクグマだけでいらっしやっているわけでもなく、ユキヒョウだけでいらっしやっているわけでもなくということなので、金澤元園長には申しわけないですけども、園長のときには何もなくて、かわいそうだなと思いました。おれのときにもう少し早く生まれればと思っているのではないのでしょうか。以上です。

**○原田委員長** ありがとうございます。

ほかに、新たに参加された委員の皆さん、いかがですか。

**○田中委員** 初もうでで神宮に行きますので、一度、そのまま円山動物園に行ったことがあるのです。そうしたら、そこでもいろいろイベントをやっていましたし、とても楽しかったのですけれども、なぜ集客に結びつかないのかなと考えていたので、こちらのイベントはすばらしいと思います。あともう一つ訴えかけるような何か、みんなに知っていただけるような形でも何かあればいいなと思っています。

**○原田委員長** ありがとうございます。

**○北川経営係長** 先ほど説明はしませんでしたけれども、15番にお馬さんのお出迎えというのがあります。うちにポニーがおりますので、ポニーを正門の前まで連れて行って、道路をたくさんの方が歩かれていますので、「あっ、お馬さんだ」ということで近づいてくれて、そのまま動物園へ引っ張り込んだらどうかと。うちの職員もいろいろなことを考えておまして、いろいろな形でお客様を呼び込みしたいと思っています。

園内の方でも、おもちつきのサービスとか、温かいドリンクの無料サービスなどで、冬に、初もうでの帰りに来てよかったなと思っていただければ、恐らく、毎年来てくれるようになると思うので、そんな先のことを見越して、札幌市民の習慣として初もうでの後は動物園というものがつくれたらいいなと考えています。

**○金澤委員** 今の補足説明をしていいでしょうか。

ちょっと立場が変わって申しわけないのですけれども、実は、三が日の初もうで客の一番のピークは元旦の夜中なのです。それを動物園に持ってくるためにどうしたらいいかということを考えると、夜中から本当は動物園を開けなければならないのです。そうすると、実は、真っ暗な中で動物園を開園することになるとすごく問題が起きるところからやめているのです。

私は、上田市長に夜中からやれということをお大分言われましたけれども、それはできない。やはり9時でないといけない。そうすると、一段落したときなのです。そこで、お馬さんのお出迎えで、馬でうまくお客さんを連れてくるというところに落ちつくのだらうと思います。干支を考えるとトラを連れて歩いているのが一番いいのですけれどもね。

**○いがらし委員** 私もそう思いました。

**○金澤委員** トラと一緒に来られたらいいなと思います。今回イベントを見ていて、サンデーセミナーの中身がすごく良くなったなと実は見ているのです。今までやってきたサン

デーセミナーの中身の質が大分変わってきて、何か勉強しようかなという感じのつくり込みになってきています。そうすると、次にはね返るので、いいなと思います。

ちょっと気がかりなのは、もちです。動物園で、もちをついて食べて、それこそ、衛生上の問題がないかどうか、そういうのがちょっとひっかかるのです。食べ物をやるときには、どうしても動物園はそういう問題を抱えているのです。

ただ、やる場所はここのホールでしょう。ここの建物ということではそういう意味ではないと思うのですけれども、もちをつくのはちょっと心配だなと思うのです。

**○服部副委員長** これは、パフォーマンスでのもちつきで、実際食べていただくのは裏からしっかりしたものが出てくるということでリスクを回避しておけばいいのではないかと思います。

**○金澤委員** 昔だったら、衛生のことは余り言わないで、それこそ動物園のど真ん中でももちをついてもよかったのだけれども、今それができないのです。聞いたら、臼でつくのは何度かで、あとは機械でやるのでしょうか。

**○原田委員長** いろいろと貴重なご意見をありがとうございます。

先ほど、林委員からのいい意見だなと思っていたのですが、動物園に来て動物を見にくるだけじゃないよというお話です。やはり、私は、この動物園に来ると何か新しい発見があって、その発見に気づいたときにはもう午後を回っていて、それをゆっくり見るにはもう一回来なければねというのが次へのリピーターを生み出すのではないかと思います。そういう意味では、先ほどもご意見がありましたけれども、このサンデーセミナーのように、こういうことをやっているんだったら次はちゃんとフォーカスを当てて来ようかみたいな、そういうセミナーが動物園で行われているということを知らしめて、体験、体感してもらって次へのステップを生み出していくのがいいのではないかと思います。

このイベントをやるのが最近の新しい傾向というか、円山動物園もこれによって人がたくさん入るようになったと私は思っておりますけれども、これは、動物を介しての、動物園というのは基本的にはサービス業ですから、社会教育サービスというサービス業だと思うのですね。

サービスをするというのは、サービスというものが一体どういう商品なのか、サービスというのはただだろうとか、目に見えないとか、人が変わるとサービスも変わってしまうとか、よく言われているところですがけれども、今、日本の産業の80%ぐらいがサービス業というふうに置かれています。つまり、第3次産業はほとんどサービス業というふうに読みかえられる時代になってきているので、そろそろサービスをきちんと設計していく、人がかわっても同じサービスが提供できるように設計すべきだと私は思っているのです。

落語でもそうですけれども、人がかわったら話が変わるのは当然という感じなのですが、動物園の飼育員がかわるとそのたびに全然変わってしまうということでは、やはりサービスがまだ商品化できていない証拠ではないかと私は思っています。やはり、これからのサービスというのは、動物を介してのサービスをきちんと設計することが非常に重

要だと思っています。

そろそろ次の議題に入りたいと思いますが、(2)のゾウの導入検討のプロセスについてでございますが、まずは資料の説明をお願いしたいと思います。

**○北川経営係長** では、手元の資料の方で説明をしてみたいと思います。

資料の方は、第8回会議資料3という1枚物と、過去の第5回会議のときにゾウの話題についてこの市民動物園会議でも一度議論しております。その過去の資料をちょっと思い出していただく、また、新しい委員に新たに確認していただくというために同じものをお付けしております。

資料3-3の第5回会議と資料3-4の第5回会議でございます。そちらの方からお話をしていきたいと思います。

資料3-3のゾウの導入についてというタイトルのものです。円山動物園の歴史とゾウということで、1953年に花子という当時の推定年齢7歳のゾウが円山動物園にやってきました。そこから53年間、円山動物園で飼育をされまして、大変多くの方に愛されて、当時は子どもだった方が孫を連れて見にきたゾウも花子と、そういう長いおつきあいのパートナーであった花子ですが、みんなで還暦のお祝いをし、平成19年1月28日に推定60歳ということで、日本では2番目に高齢の年で亡くなりました。

それ以来、円山動物園はゾウのいない動物園となったわけでございます。2番目に、市民議論が必要な理由ということで、なぜすぐにゾウが導入できないかということですが、一つは、ゾウは稀少動物、絶滅危惧種ということもあってワシントン条約によって守られております。ゾウを飼育する際には、野生動物を保護するもしくは繁殖をするという目的でなければ導入できません。繁殖をするという目的で導入するということは、最低でも雄、雌のペアでなければ飼うことはできないということです。

しかも、野生のゾウというのは1頭の雄に対して複数等の雌で群れをなして生活しております。ですから、日本の動物園でも雄1、雌1という飼い方をしている動物園ではこれまでも出産例がないのです。ですから、本格的にゾウの繁殖を目指すのであれば複数等の飼育をしなければいけない。そうなりますと、これまで花子を飼育していました古いおり、展示場になりますけれども、そちらの方では飼うことができないだろうというふうに考えています。ゾウ専用のゾウ舎を新たに設けなければ飼うことができません。そのゾウ舎建設、またはゾウの導入費用の調達にはかなりの時間と金額を要するのではないかとということで、これにつきましては、市民の皆さんと議論をしながらどうするか決めていきたいということで、ゾウが亡くなって以来、こういった議論を何回か続けてきています。

ゾウの国内外の状況ですけれども、アジアゾウ、アフリカゾウそれぞれの野生下での頭数であったり、裏面に行きますと国内の繁殖状況、ゾウの繁殖で言いますと、最近では市原ぞうの国、あるいは神戸市王子動物園での繁殖の実績が出てきておりますが、それまでの間はほとんど国内での繁殖事例がなかったということでございます。

また、ゾウの死亡も導入時期が近かったものですから相次いでおりまして、道内では現

在のところ、帯広市の動物園に1頭のゾウがいるのみとなっております。こちらも高齢になってきておりますので、将来的には北海道にゾウがいなくなると思います。つい先日、ゴリラのゴンが亡くなって、これで北海道ではゴリラが見られなくなりましたが、もしかしたら、今後、そういう動物が増えていくかもしれません。

ゾウの導入実績の最近の事例を見ますと、名古屋市東山動植物園で2007年7月、沖縄のこどもの国で同じく2007年12月に導入の実績がございます。

また、福岡動植物園、上野動物園、天王寺動物園といったところでも新しいゾウ舎の建設がございまして、大体8億円から13億円程度の建設費用がかかっているケースが非常に多いです。この理由といたしましては、大きさも必要ですけれども、当然、産室というものが必要であったり、ゾウの中でも特に雄は非常に気性が荒いということもありまして、雄を飼うというだけでコンクリートの壁の厚さがぐっと増すわけです。雄は雄だけで放して飼うこともできるような施設にしなければいけないということもあるので、構造も非常に複雑なものになっているということで建設費用がかさんでくるのが懸念されています。

また、もう一つの資料3-4ですけれども、ゾウ導入への夢のシナリオという横判の資料がございます。この夢のシナリオというのは、円山動物園にゾウを新たに導入するとした場合にどういうステップが必要なのかという仮のシミュレーションをしたものでございます。これは昨年時点でのシミュレーションでございますけれども、再度ご紹介します。

これは、1行が大体1年のイメージでお考えいただけるのかなと思います。まず、導入可能なゾウがどこにいるのかということを探す、アジアやヨーロッパの施設を調査していく、輸出国との交渉を始めていく、その中で新しいゾウ舎の設計をしていく、同時に絶滅危惧種ですので環境省との調整が必要になってきます。それから、建築場所としては、これまでも円山動物園の基本計画の中で示しておりますが、現在の熱帯動物館、キリン、ライオン、もともとゾウを飼っていた一番古い施設、一部大きな施設になりますが、こちらの動物を、新たにアジア館、アフリカ館という新館をつくりまして全部引っ越してかららんどうにしてからそこを新たにゾウの館にするというステップが必要になってくると思います。そうした場合のゾウ舎建設に当たっては1期工事、2期工事、3期工事ぐらいはかかるだろうと。その中で飼育員の技術研修とか、タイなど現地の飼育員の導入が必要になるかなというふうに考えますと、やはり10年越しというか、そういった長い時間をかけての導入がこの時点では検証されたわけです。

こういう中で、ゾウの導入に関してはどこかの時点で答えを出していかなければいけないということで、昨年も市民動物園会議で議論をしましたがけれども、その場ですぐに答えが出るわけではないということで、では、どうやってその検討を進めていくのかということで、資料3ということで、これからゾウの導入をどういうふうに検討していくのかというプロセスについてご報告をしたいと思います。

ゾウをめぐる現況と当面の対応ということで、まず、最近、これは市民からの要望ということで受け取っていいと思いますが、平成21年11月に国際ソロプチミスト札幌中央

という団体の方から、ゾウなどの新たな動物の導入に使ってくださいということで多額のご寄附をいただいております。こういった形でゾウの導入を望む声が高まっているのかなと思っております。

そこで、我々としては、二つ検証をしていこうと。一つは、札幌市民がどう考えているのか、一般の方々がどう考えているのか、もう一つは、プロの目から見てゾウ導入にどうという課題があるのかと、この二つを検証しようというふうに考えております。

まず、札幌市民というところで言いますと、市民アンケート調査の実施についてということで、今年度の第2回市民アンケート、これは札幌市全体でやっているものですが、ちょうど12月1日からスタートをしております。満20歳以上の男女1万人に対して郵送でアンケートをお送りしております。その中に、円山動物園にゾウがいませんということで、多額の建設費も見込まれますが、ゾウは導入すべきか、もしくは導入すべきではないのか、そういった意向調査をアンケートの中でしております。これらにつきましては、2月の末ごろに調査結果がまとまる予定でございますので、また次回の会議の中でもご報告ができると思えますし、それを踏まえて検討していければなと思っております。

もう一つ、プロの目からということですが、ゾウ導入に係る基礎調査の実施についてということで、ゾウを導入すると仮定した場合の諸課題及び解決策について専門家の意見に基づいて整理し、今後の円山動物園の基本計画、これは20年8月に策定をしておりますが、ちょうど来年度、基本計画の見直しの年を迎えます。その見直しの際に基礎資料として活用したいと考えております。

ここでの専門家ということですが、実は、上野動物園で長年ゾウの飼育に携わっておいりました元飼育員でもう退職をされている方ですが、その方が退職してからもコンサルティング会社のようなものを立ち上げておまして、この方は非常に国際的にもたくさんの人脈を持っていて、ゾウの導入に関して非常に知見のあふれた方だということで、実は、先日も円山動物園に一度お越しいただいて、園内の施設の状況を見ていただいたり、うちの飼育員に対していろんなアドバイスをいただいたのですが、この方に今年度中に調査業務の依頼を申し上げて課題の洗い出しをしようかなと考えています。内容につきましては、アジア各国または国内の状況、世界のゾウ飼育の現状についてということで、世界じゅうでは、アジアだけではなくてヨーロッパでもたくさんの動物園でゾウが飼育されて繁殖の実績もございます。こういった実績について情報提供をいただこうと思っております。

また、ゾウの導入及び具体的な手法についてということで、ゾウを導入する相手国の候補とか、アジア各国でゾウに関してはさまざまな方針の転換期にあるやに聞いておりますので、こういった状況についても聞きたいと思っております。また、円山動物園で飼育するとした場合の飼育施設、それから飼育員の体制についてもアドバイスをいただこうと考えております。

最後に、必要な職員の研修などについてもご議論をいただきまして、今年度中に実施いたします。

こういった市民アンケートや専門家の目から見た調査結果に基づきまして、またこちらの市民動物園会議にその結果をご提示いたしましてご議論をいただき、22年度の基本計画の中にゾウのあり方、導入するのかもしれないのか、こういうことも含めて決定をしてみたいと考えています。

資料の説明は以上でございます。

**○原田委員長** ありがとうございます。

ただいま報告がありましたように、今、ゾウをめぐる二つの仕掛けをしているところです。一つは、市民アンケート調査を実施して、その結果は2月に得られるので、それをベースにした討論が可能であろうということと、もう一つは、ゾウ導入に関する基礎調査を実施します。元上野動物園のゾウの飼育専門家である方にこれから基礎調査を依頼して、大まかな世界の動向、それから、今後、円山動物園がゾウを飼育するに当たって、どのような制約なり条件が必要になってくるのかということについて報告書をいただいて、それをベースにした検討ができるでしょうということでございます。

今日は、ここで結論を出すということではありませんが、このゾウの飼育について今言っておきたいことがございましたら、ぜひご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

**○いがらし委員** 市民が要らないという結果が出たらどうするのですか。

**○嶋内経営管理課長** 今回、大規模なアンケート調査で、恐らく、この種の調査については意見はさまざまな形に分かれると思うのです。こういう財政状況でもあり、不要だという意見が多い場合については、市の方としては、市民の方に楽しんでいただく、そしてゾウの関係でいろいろな思いを持ってもらうという部分なので、恐らく、それなりの判断になるのかなと考えています。

**○いがらし委員** 景気が上向きになるまでアンケートをしつこく繰り返すという気はないですか。

**○嶋内経営管理課長** 凍結という選択肢もあるかもしれないですね。

**○いがらし委員** 状況的に、お金がかかると表に出てしまうと、夢と現実という形になるからね。

**○嶋内経営管理課長** 同種の調査に基づいて、花博の関係でも、先般、市長が進めないという判断をされていますから、それだけ市民の意見については重要な判断材料だと考えております。

**○いがらし委員** 林委員、どうしても欲しいという意見が出るようにできませんかね。

**○林委員** 私に聞かれても。私はメディアなので、そういうことを言われても……。

**○いがらし委員** 私はどうしても欲しいと思っているから、ゾウさんが来るといいですね。メディアは動かないのですか、来た方がいいと。

**○林委員** それこそ、課長が答えられたように、市民が望まないというのであれば、メディアは強いだけに主導することは控えなければならないのではないのでしょうか。要するに、

そのことによって、市の財政がということになります。13億かかって、それ以降もお金がかかることを覚悟しなければいけないわけですから、そのことを含めて必要だと。

こんなこと言っではいけないのですが、事業仕分けの中の科学にお金をかけるかどうかというのは国が一番でなくていいと言っていて、そうですかと言ったらそれに決まるような国かどうかというのが大きな問題と同じように、ゾウの問題も同じだと思うのです。

やはり、議論をし続けるということですね。つまり、アンケートをとらなくても議論し続けるようなまちづくりというか、円山動物園がそういう役割を果たしていくのならば、安い動物ならいいけれど、高い動物はだめだとか、そういう問題ではなくて、これは教育とか科学と同じように、そのことでたくさん得ることがあるのだということを議論できるというか。

それこそ、佐藤委員のような若い方が今回は参加してらっしゃって、あの人たちが動物園に来る、皆さんたちの時代にゾウが来るのだという夢があれば、10年後ですから、それを考えると、ここの皆さん方が本当に議論して、そういうことだけはやってほしいということですね、いがらし委員の言っているのは。

**〇いがらし委員** そうです。

**〇林委員** 来るといっても10年後ですからね。

きのうNHKでもやっていましたけれども、今はとにかく命を消費するような時代に入ってきてしまって、本当に憂うべき時代というか、自分で飼育を放棄して、例えばペットの会社でも余り大きくなって売れなくなったら殺さざるを得ない。そういう時代ではあるのでしょうかけれども、犬などのペットの問題も含めて命を消費する時代に入ってしまった。そういう中で言うと、やはりゾウをめぐる議論をし続けるようなまちというか、それを絶やさない継続しているまちは、きっとこの小さな命も、おれが将来、最後までこいつの面倒を見るんだ、そのためにはおれの給料のこの分を払っても場所も確保してやるんだぞみたいなことを考えてもらうような、そういうまちづくりというのか、市民づくりというか、メッセージを円山動物園から送ってほしいと思うのです。

実は、今日個人的に北川さんとか園長がいたら話そうと思ったのですがけれども、これはマスコミがやらなければいけないのです。命を消費する、そうか、ペット屋さんも捨てるのか、きっとそうだよなというのがある。それでなくても、今、円山動物園が捨てられる動物を陰で一生懸命抱えています。けれども、ペットとしての動物まで抱えていたら大変なことになりますから、注射代とか考えたら大変だろうなとかいろいろなことを考えると、大変なのです。そういう意味を含めて、来年に向けて、任期中の締めとしては本を出そうと思っています。

今後のためにも、そういうお金がかかって動物園というのは動物の命を守っている。そういう意味では、そこにお金を惜しむということは命を粗末にすることでもあるのだというようなことをもうちょっと分かってもらうような、そういうメッセージを出したいと思っています。本が先か、放送が先か分かりませんが、そういうことを個人的にはや

りますけれども、ここでも、ここはその議論の場ではないかもしれませんが、そういう議論の場を作ることができたらいいのではないのでしょうか。10年かかるのだったら議論していかなければいけなくて、作ったらその後どうするか、どのような面倒の見方をするか、どんなふうにみんなでお金を出し合って維持費を面倒見るか、入場料だけでゾウは買うのはどうも大変そうですね。入場料だけでと思ったら、入場料の費用を考えると、今度はまた経費がかかりますね。でも、そのことを覚悟しても欲しいのだという気持ちがあったらとてもすてきだと思います。

**○原田委員長** ゾウ導入については、ここに書いてあるように夢のシナリオということであって、この夢のシナリオを持たなくなったら終わりではないかと私も思うのです。だから、いいとか悪いとか今決めるといよりも、経済状況の悪いときには我慢してという態度が必要であって、それで状況が良くなれば夢を実現しようかという全体の流れの中で動物園が決めていくというのがいいのではないかと思います。

ですから、今回の市民アンケートでノーというのが例え出たとしても、この夢を消さないようにするのが動物園の任務であろうと私は思っています。それが実現できるような仕組みづくりを動物園は絶やさないようにしていくと。だから、何回でもこういうアンケートは継続的にやっていくべきだろうと思います。

いずれにしても、どういうことになってきているのか、その市民の意識がどの辺にあるのかというあたりをベースにして、突っ込んだ議論をそのデータが出た時点で、それから、専門家の報告書ができ上がった時点でここで改めて議題にしていきたいと考えております。

ということで、次の議題に進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

**○原田委員長** 次の議題といっても、その他になります。今日は新しい委員がたくさんお集まりですので、私はここでこういうことをテーマに議論をしていきたいし、意見も聞いていきたいということがもしありましたら、新しい委員にぜひ最初のうちに聞いておきたいと思っています。

**○佐藤委員** 議事を見て、それぞれについていろいろとお伺いしたいと思います。

まず、直前にあったゾウのことですが、やはりアンケートを取られているということで、出てくる結果は短期的なスパンで検証されたものだと私は思うのです。

ただ、皆さんがおっしゃられたとおり、例えば、円山動物園が百周年を迎えたときに、そこから振り返ってみてゾウがいなくなって、でも15年、20年かけて何とか円山動物園にまたゾウを取り返したという記念誌なり歴史というものが円山動物園はできると思うのです。ですから、例えば、直接的にゾウ専任の飼育員を研修するというのはゾウが来ると分かってからでなければできないと思うのですけれども、そうではなく、間接的な、例えば広報にわたる分野とか動物をどう市民の方と結びつけるかという仕組みに関しては、必ずしもゾウを通してでなくても出来ることだと思うので、今はそういった現状を踏まえながら、出来ることで効果の高いことをやっていっていただきたいというふうにゾウに関

しては思っています。

私自身も、やはり費用の点ということもありますので、ゾウを今入れるべきか入れないべきかという確固たる答えは持っていないので、大変生意気な意見になってしまって申しわけないと思っています。

それから、次の経営状況に関してです。

資料2-1の第8回会議の資料ですが、昨年度の10月期から見ていきますと、冬というのは、入場者数ではなく増減比率という点で伸びにくいのかなとこのグラフを見て思っているのです。やはり、今年度に関しましては、4月、7月、8月と傾きがほかの月より一見してわかるほど増加率が高いというふうに理解しているのですが、この増加率が高くなった理由は、冒頭に環境局理事からお話があったとおり、ツイنز効果と緻密な改善があると思うのですが、そのほかに何か要因として考えられる点はありますでしょうか。

**○金澤委員** 理事がお話した内容の中にすごく細かいものがいっぱい積み上がった大きなことをふらっと言っているから、その中身ということになるとすごく細かい話がきっと出てくるよ。

**○北川経営係長** 一つは、当然、双子が生まれて、そのことで20年ぶりに久しぶりに行ってみようかという方が増えてくださったということはすごく大事なことですけれども、動物園に20年ぶりに来て意外とおもしろかったというふうに言っただけ、そこが一番大事なのです。その評判を聞いて、では行ってみようかしらという方もいらっしゃるし、リピーターになってくださる方もいらっしゃいます。だから、来てみてガッカリ、双子はかわいかったけれども、ほかはガッカリだったねだといけないのです。そうではないための努力というのがやはり重要ですが、これは一朝一夕にはできないものです。この4年間、ずっと円山動物園が努力し続けてきたことは実はそこにあるのだというふうに我々は確信をしています。

そのうちの一つが、みんなのドキドキ体験という体験メニューなのですけれども、これは、全ての飼育員が自分の担当動物で、飼育員がお客様の前に行って動物を解説したり、えさやりをさせたり、例えばトビが飛んできて手にとまったり、そういう体験メニューが、今、円山動物園には61種類あるのです。冬は1日にできる数が減っていきますけれども、夏だと1日10個ずつぐらいあります。だから、年間で延べ1,500回ぐらいそういう体験メニューがあります。当然、61種類ありますので1回来ただけで全部できるわけではないのです。だから、何度も何度も来て体験をしていく。そういう何かのきっかけで動物園に久しぶりに来たのだけれども、こんな体験メニューがある、こんなこともある、余りメジャーではない動物でも飼育員の話聞いてみたらすごくおもしろかった、そういった地力が上がってくるというか、そういうところが非常に重要なのだろうと思っています。それが、口コミ効果を生んでいくのかなと思っています。

もう一つは、マスコミに取り上げていただく回数が非常にふえたのですけれども、同じように、企業のタイアップが非常に増えたのです。例えば、札幌トヨペットさんが、プリ

ウス1台売れるとうちのホッキョクグマの繁殖に1万円寄附しますというキャンペーンを1年間通してやっていただいたり、今もシロクマの放飼場のそばに看板が出ていますけれども、コープさっぽろさんがホッキョクグマの応援をしてくださったり、グランドホテルさんや、最近で言えばコアップガラナの小原さんや、シロクマの顔のついたタイムズスクエアという菓か舎のお菓子ですね。ああいうものを街中でも目にするようになって、いわゆる露出が増えていまして、動物園に来ないお客様のとっても円山動物園を耳にする、目にする機会がふえています。単純接触と言いますけれども、それが非常に増えているのです。そういうことが新たなお客様を呼び込むきっかけになっているのではないかというふうに分析しております。

○佐藤委員 ありがとうございます。

○金澤委員 それも全部相乗効果なのです。一つ一つの積み重ねをやって、それが複合的になった相乗効果が出ているのです。だから、正直に言って、隣にコンビニが一つあるだけでも条件が違うとか、カフェアースができただけでもお客さんにとっては快適性が増すのです。それから、何といてもいいのは、向かいのオフィシャルショップにいろいろなグッズが揃っているというだけでお客さんが来るというのは、その積み重ねなのです。

だから、まとめて表現されてしまっているけれども、そこなのです。その原点は何かといたら、先ほど委員長や林さんが言われたように、サービスいうものを動物園に持ち込んだのです。そこから始まっているのです。だから、お客さんが来て快適な状況をつくれるようになっていくように、みんなが一つ一つできることからやろうという取り組みをしたということなのです。

○原田委員長 ということによろしいですか。

○佐藤委員 はい。

○原田委員長 ほかに、新委員の方、何かありませんか。

○田中委員 ホッキョクグマのツヨシだけ名前が変わらないのですけれども、ほかの兄弟と一緒にアイヌ語に変えるということはないのかと思ひまして、質問させていただきたかったのです。

○上野飼育展示課長 ツヨシは、前に釧路市動物園の方とお話したときにも、絶対に変えないぞと言っています。性別なんか関係ない、ツヨシはツヨシだと言って変える気は全くないということです。それは、我々も釧路市動物園さんの意見を尊重する立場ですので、それはしょうがないですねと。

一度、向こうでの動物園の中でもそういう議論があったらしいのです。それから、向こうは応援団というか、ツヨシのサポーターがいっぱいいますので、そういう方たちも交えて動物園でもお話ししたみたいですが、ツヨシはツヨシという結論になったようです。

○田中委員 わかりました。

○林委員 それは、メディアとしてはすごくおもしろい話です。それだけで一つ記事が書

けます。そこに今おっしゃったようにファンがいて、こちらにはそのような疑問を持つ方がいらっしゃるわけです。そういう人も、そう聞くと納得しますね。それは仕方がないねと。それは、何か暇な折にぜひ発信した方がいいのではないのでしょうか。

**○金澤委員** 動物の名前というのは、男だからこういう名前、女だからこういう名前ではなくて、基本は愛称なのです。だから、男っぽい名前もあるし、女性っぽい名前もあります。そして、釧路の場合はツヨシは4年たってわかったのです。実は、ツヨシプロジェクトというサポーターがあるのです。そのサポーターの方が結構抵抗を示したというのが一つなのです。

**○いがらし委員** かわいい名前にするのに。

**○北川経営係長** そのうち、繁殖に成功して母は強し(ツヨシ)と言われると思います。

**○林委員** オチだ、すごいな。

**○いがらし委員** 今のはすばらしいと思う。母は強し(ツヨシ)。ぴったしじゃないですか。

**○原田委員長** 堀田さんいかがですか。

**○堀田委員** 動物とは関係ないのですけれども、夏場の入場者数が増えるのはわかるのですが、車がかなり渋滞しますね。あれをもう少し何らかの形で改善されともっと入れるとか、本当は時間がないのにちょっと寄ってみたいというお客を随分逃しているような気がするのです。その辺の駐車場の問題ですね。私も何回か来ようと思っても、これだけ並んで1時間半は待つなと思えば帰ってしまいますし、もったいないと思います。

**○北川経営係長** これも非常に頭を悩ませている問題でして、リスタート委員会の中でも議論をしたところであります。

一つは、ゴールデンウィークというのはどうしようもない部分があるのですが、そこでも、民間のバス会社の方で、ちょっと離れたところにバススペースがありまして、そこからバスでピストン輸送ですね。パーク・アンド・ライドのような形をとって検証して下さったことがございます。

それから、動物園としましては、市営地下鉄とタイアップをしまして「ウィズユーパスポート」というウィズユーカードと動物園の年間パスポートをセットにしたような企画商品をつくって、地下鉄に乗って円山動物園へ行こうというキャンペーンをここ何年か続けております。

あとは、近隣、ふもとの方に新しい商業施設もできて、そちらにも駐車場ができておりますので、そういった近隣の駐車場を擁する施設とのタイアップということも渋滞緩和のきっかけになるのではないかとということで検討をしているところでございます。

**○堀田委員** ありがとうございます。

**○服部副委員長** それに関連して、今回の無料駐車券の問題ですね。非常に楽しみというか、私もこういう企画をやられたことを聞いて、駐車場大丈夫か、パンクするのではないかと思いました。これは、80万部ですか。

**○北川経営係長** 80万部ですね。

**○服部副委員長** 80万部の無料券を配ったわけですから、本当に動物園にちょっとでも関心を持つということであれば、無料券ちょうだいとみんなかき集めて、しこたまサイフの中に入れてある、鞆の中に入れてある。そうすると、渋滞の危険性がなきにしもあらずということ予測しなければならないのかなと思います。80万人がクーポンを一つずつ使ってくれただけで80万という莫大な物事になるわけです。これは一つの検証という見方ができるだろうと思うのですけれども、大変いい試みであると同時に、まさに堀田委員がおっしゃったように、駐車場対策というのは協議しながら結論づけていかなければいけないという状況だろうと思います。いい問題提供をいただいたのではないかと思います。

**○堀田委員** あれは三が日も期間の中に入るのですか。

**○北川経営係長** 実は、そこがミソでございまして、お車で初もうでをされる方がたくさんいらっしゃいますので、そういった方に、注釈に書いてありますけれども、動物園利用者限定ということなので、このクーポンを使って初もうでに来て、そして動物園に寄って帰っていただくということを誘導するような効果を期待しております。

**○服部副委員長** スタンプか何かを押すのですか。

**○北川経営係長** スタンプは押さないですね。券の回収のみです。

**○服部副委員長** 入場の時点ですか。

**○北川経営係長** 駐車場に入場するときです。

**○林委員** そのときに動物園に行きますと言っておきながら行かなかったらどうするのですか。

**○北川経営係長** その可能性もありますね。

**○林委員** あるね。結構多いと思うよ。

**○北川経営係長** ここは、お客様を信頼して。

**○林委員** 信頼しちゃうの。

**○北川経営係長** そのかわり、こういった形で三が日は無料サービスでやると。

**○林委員** 民間だとどうするかというと、民間だと駐車場があるじゃないですか。そうすると、駐車場のパスポートをお持ちですかと。それと同時にチケットを配るのです。もっというと、民間だとチケットを持っている学生のアルバイトさんをお願いをして、チケットを駐車したときにそのまま渡すのです。買っていただくのです。そうすれば間違いなく信用と信頼があります。そこで、「おれは後で買うよ」と言われても、後といってもここにしかチケットはありませんよと言ったら、それは買いますよ。それが信頼です。

服部副委員長が心配されているのはその部分もあると思いますよ。三が日の部分も含めて、これは夏だったらこんなことは絶対やらないじゃないですか。だって、こんないい場所に駐車して円山の散策できるならそれに超したことはないです。私も性善説ではあるのですけれども、そこは大変なのですか、市役所というのは。

**○北川経営係長** いわゆる認証のどういう手続をしようかとかなり検討しまして、中でハンコを押したりということも考えてみたのですけれども、駐車場の料金回収のシステムと

か人員ということを考えるとなかなか難しいのかなということで、1年目は一旦こういう形で検証してみようかという状況です。

**○服部副委員長** 検証するにしても、今、林委員がおっしゃったように、やはり集客に向けての検証ですから、駐車場に来た人が入るか入らないかを検証するのはもってのほかであって、あくまでも動物園を利用していただくための駐車場の無料クーポン券を配ったときの評価がどういうふうに出てくるのかということを検証するべきだと思うのです。

ですから、林委員がおっしゃったように、芸術の森も入れば500円取られるわけですから、あのスタイルで、入ったら600円のクーポン券を売ってしまう。まさにその場での物事ですので、売れるのではないかと思うのです。

**○いがらし委員** そうすると、どうしても見て帰りますよ。

**○服部副委員長** 買ったから見ざるを得ません。まさに、そういった中でこの無料クーポン券の評価、効果があったかどうかの評価をすべきだろうと思います。ぜひ、それはお金をいただいでください。

**○林委員** 公共施設のパブリックを使うというのを教育するシステムがないからだめになっていっているのだと思うのです。だめというのは、要するに、いろいろなところで税金を払っているのだから何してもいいのだろうという考え方を持っているのです。税金は税金で別なところできちんと使われて、むだな税金を使わなければいいわけです。

問題は、こういう公共施設を維持管理するためにはそういう経費がかかるのだということをも市民一人一人が理解するためには、やはり取らないとだめです。いいのだろう、税金でやっているのだろうと。けれども、最終的にはぐるぐる回ると赤字になっているのは、そういうところで勝手な人が、そういうときは便利だといって使っているからだと思うのです。そういうのはもったいないと思います。むしろ、円山動物園がやるのだったらみんな反対しなければならない。

**○北川経営係長** 駐車場は今も有料ですよ。

**○林委員** だからです。有料なのに今回だけ無料にするというのは、どんなサービスの意味を持っているのかということです。要するに、それは冬でも来てくださいという意味合いだからね。

**○いがらし委員** 三が日は開くのはどうせ9時からでしょう。

**○北川経営係長** そうですね。

**○いがらし委員** 夜中からバイト雇う必要はないのだ。

**○林委員** ただでやってしまうというのは、民間で言うと、1回ただでやってしまうと、市民がただでできるんじゃないかと思うのです。ただでできることを金を取っているんだと思われたらどう思いますか。これは、ちょっと考えた方がいいと思います。

**○原田委員長** スタンプを押すだけなんじゃないですか。

**○北川経営係長** スタンプを押すだけでは済まないのです。今の仕組みだと、駐車場に入るときにお金を払うのですよ。そうすると、中で払い戻しというのが発生するのです。

**○いがらし委員** 入るときにスタンバイしていて、パスポートを見せてもらうか、その場で買ってもらうか。

**○北川経営係長** 買うって、何をかうのでしょうか。

**○いがらし委員** 入園券です。このクーポンは動物園利用限定ですのでセットじゃないと利用できませんよと。そんなに時間がかからないですよ。

**○服部副委員長** 利用者限定ということで書いていますので、そのものずばりですから、入場料を持っている人か、年間パスポートを持っている人か、新たに買い求めた人以外は停められませんということです。それはきちんと明確にしておくことが大変大事ですし、今、教育の問題から云々とおっしゃいましたけれども、まさに教育材料ですからね。

**○林委員** 民間企業が一番困るのは、そうすると、払った人は善良な人なのかばかな人なのかということになるのです。まともに入った人は善良な人なのかばかなのかということなのです。つまり、本当は初もうでに行くことが主なのだけれども、あの駐車場を使いたい。だから、使うためにはそれなりの対価を払わなければいけないのだと。同じだよ、駐車場はほかのところは有料でやっているじゃないですか。だから同じだよ、と言って、円山動物園のために行つて払う人もいる一方、だめだな、お前、ただだと言っているのに、別段おれは初もうでに来たのだから行く必要なんかないのだと言う者がいて、大体払っているやつはばかだよになってしまう。

だから、民間企業が無料をやるときに困るのは、相当気をつけてやらなければいけないのですよ。どこかを無料にするけれども、どこかを間違いなくきちっと負担をしてもらうということです。それでないと均等にならないのです。だから、これはいいことだと僕は思うから、逆にちゃんと取った方がいいのではないですかということです。

**○北川経営係長** その場で券を販売できない問題もあるのです。駐車場をやっているのは別の会社で、そこは券を売ってはいけない、券を売するための業務を新たに委託しなければいけなかったりと、かなり複雑なのです。いろいろなことを検証したのですけれども、シンプルにやらざるを得ないなと内部での検討結果だったので。

ですから、今おっしゃられたことも踏まえて、年パスは見せてくださいという確認はできると思うのですけれども、そこで券を売ること今はできないです。

**○服部副委員長** その場所は動物園でしょう。

**○北川経営係長** ちょっと複雑になりますが、駐車場は指定管理者という制度で……。

**○服部副委員長** 駐車場はでなくて、駐車場の管理をしてもらっているわけでしょう。それは、あくまでも駐車場の管理でございますので、クーポン券で無料にしますよということで、これについては指定管理者に相当分を払うわけでも何でもないわけですね。

**○北川経営係長** そうではないです。

**○服部副委員長** 無料は無料ですね。そうすると券売場だけの問題なわけですね。

**○北川経営係長** そうです。

**○服部副委員長** そこに新たに駐車場の入り口に指定管理者の人員がいるわけですね。

○北川経営係長 います。

○服部副委員長 新たにその中に、ダブってしまうのでしょうか、券売場の人間をそこに移動させてそこでやるということもだめなのですか。

○北川経営係長 もし実現するとすれば、そういう形になりますね。

○服部副委員長 新たにアルバイト使ってもそこで入場券を販売すると。意外と簡単なことだろうと思うのです。何も難しいことではないと思います。

○林委員 民間だと何も難しいことではないです。バイト代かかっちゃうとか、その経費だけちょっとマイナスになるとか……。

○服部副委員長 指定管理者の方にアルバイトをちょっと頼むという手もあると思うのです。

○北川経営係長 なかなか新たな委託業務の発生というのは、業者さんとしては難しい部分があったりするのです。

○嶋内経営管理課長 今までは入園料の無料券ということでしたけれども、冬場の特に12月、1月と極端にお客さんが少ないものですから、今回、今年初めて試みとしてこういう形をとらせていただいて……。

○服部副委員長 話の腰を折って申しわけございませんが、80万部配っているのですよ。私が心配しているのは、80万部配っているということは80万台が来る可能性があるということですよ。ゼロということはないですね。

○北川経営係長 そこは、過去3年間の実績のデータがあるので余り心配していません。無料券を配っても80万人来るわけではなくて、2,000人しか来なかったのですけれども、その部分をどう見るかなののでしょうかけれどもね。

○服部副委員長 ほかの委員も聞いていただきたいのですが、あくまでも動物園のところにある駐車場を無料にするという受けとめ方をされる危険性が非常に高いと思うのです。これは2カ月間続きますから、こんなものはあつという間に口コミで広がりますから、あそこは無料ですよ、動物園に入らなくていいよと。

○林委員 来週から雪が降るかもしれないですけども、僕らはイベントやったりしているのでわかりますが、雪が非常に少ないとすると、車の出足が非常によくなる。そうすると、今、安・近・短でお金の使うところが全然ない。お金をなるべく使わないところでやるというと、こういうものをやる時に例年の例を挙げるのはすごく危険なのです。時代によって相当変わるので、そのための警備体制をしなければいけないのです。つまり、金を取ることによって制限をして、来させなくするということもできるわけです。今、服部委員がおっしゃったことはそういうことだと思うのです。つまり、お金を取ると。80万人来るということは、ただにこしたことはない。80万人が来るということをおっしゃっているだけではない。可能性はそこにあるから、三が日に5万台来ただけで、パンクもパンク、大パンクじゃないですか。それをしたときに、お金はゼロ円だけれども、入ってくる人は実は振り返って見たら何でもなかったといったときに、どうするのかといったら、

5万人、例えば、すごい多くの人数が来たときに、経験則にならないと思うのです。つまり、失敗は成功の何とかだけれども、そういうことも準備をしてなくて、5万人に来たら、次に今度はアルバイトさんを雇ってこうやってこうやりましょうといったところで、そこでどう処理仕切れなかったかということもあるわけじゃないですか。その危険性が非常にあるような気がするのです。恐らく、きっと同じ感覚で言っているのだと思うのです。

今の時代はわからないですよ。お客さんの向きは全くわからない。これはJ Cの方にお聞きになってもいいけれども、この経済の厳しい状況ですから、今まで行っていたところとは全く違うところ向かうのです。

三が日、特にお参りする人たちも、若い人たちが結構参拝に行っているのです。そういうものを含めるとわからないです。ちょっと心配です。僕らイベントをやっている人間としてはね。

**○原田委員長** 予定時刻が4時ということで、最後のクーポンの話で時間オーバーとなっております。確かに、これについては、もしもトライアルでデータをきちんととるということであれば次に生かせるのではないかと思いますので、このクーポンを使った人でどれぐらい入ったのか入らなかったのかという後追いができるような、これは、このカードをあげてしまうということになると難しいところはありますが、検証ということであれば、何らかの形でデータをきちんと取られた方がいいと思いますし、それが次に生かされるということにつながりますので、そのようにしていただくということで、今日はこのあたりにしておきたいと思います。

次回の議題、それから先の日程等につきまして、事務局の方からお話を伺いたと思います。

**○北川経営係長** 次回の会議につきましては、恐らく、日程については年度がまたぎまして4月の中旬から下旬になろうかと思います。

議題としては、まず、21年度の経営状況の総括です。最終的に何万人入ったのかという報告も含めて21年度の総括と、22年にオープンいたします新施設のご案内といったことが議題の中心になろうかと思います。また、先ほどございましたアンケートの結果についてもご案内するかと思います。

日程につきましては、近づきましたら改めて調整をさせていただきます。

#### 4. 閉 会

**○原田委員長** それでは、また次回お集まりいただきたいと思います。

今日は、このあたりで終了とさせていただきます。

お忙しい中をお集まりいただきまして、どうもありがとうございました。

以 上